

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月8日
【四半期会計期間】	第42期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	アリアケジャパン株式会社
【英訳名】	ARIAKE JAPAN Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田川 智樹
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿南三丁目2番17号
【電話番号】	03(3791)3301(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経理部長 松本 幸一
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿南三丁目2番17号
【電話番号】	03(3791)3301(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経理部長 松本 幸一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） アリアケジャパン株式会社九州第2工場 （長崎県北松浦郡佐々町小浦免字小浦浜1572-21）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第41期 第2四半期 連結累計期間	第42期 第2四半期 連結累計期間	第41期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	26,427,416	25,453,198	56,550,168
経常利益 (千円)	5,991,221	5,629,356	12,546,905
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	4,104,322	3,821,098	16,677,219
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	4,619,346	3,329,827	17,229,087
純資産額 (千円)	77,169,074	90,408,328	88,904,030
総資産額 (千円)	90,080,421	102,788,382	106,699,766
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	128.98	120.08	524.09
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	85.14	87.44	82.84
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,600,334	850,341	9,704,858
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,329,783	13,849,775	5,036,320
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,485,961	1,832,536	2,155,878
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	16,782,109	30,499,171	19,543,385

回次	第41期 第2四半期 連結会計期間	第42期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	64.89	58.45

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 記載金額は、千円未満を切捨てによって表示しております。なお、1株当たり情報については小数点第3位を四捨五入によって表示しております。
4. 売上高は消費税等抜きで表示しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、第1四半期連結会計期間において、株式会社ディア・スーパは清算が終了したため、連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年9月30日）におけるわが国経済は、雇用環境や所得の改善を背景に緩やかな回復基調が続いてはいるものの、米中貿易摩擦や原油価格の上昇の影響等で世界経済の不確実性が高まり、先行きの不透明感は払拭できないまま推移しております。

このような状況下で、当社グループは「世界7極体制」を構築しているグローバルエンタープライズとして、また、天然調味料におけるリーディングカンパニーとして顧客ニーズを先取りし、全世界の既存事業の拡充と、新規事業の積極的な展開を図りつつ、「食の安全」「健康」「おいしさ」を追求してきました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当第2四半期連結累計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,911百万円減少の102,788百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ5,415百万円減少の12,380百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,504百万円増加の90,408百万円となりました。

b. 経営成績

当第2四半期連結累計期間の売上高は25,453百万円（前年同期比974百万円減）となりました。

また、営業利益は5,471百万円（前年同期比189百万円減）、経常利益は5,629百万円（前年同期比361百万円減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,821百万円（前年同期比283百万円減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純利益が5,629百万円（前年同期比6.0%減）と減少しており、たな卸資産の増加、有形固定資産の取得による支出等があったもののAriake U.S.A., Incの売却代金の入金により、当第2四半期連結会計期間末には資金残高は30,499百万円となり、前連結会計年度末より10,955百万円の増加（56.1%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が5,629百万円（前年同期比361百万円減）と減少し、減価償却費730百万円を計上し、法人税等の支払額が6,865百万円より850百万円（前年同期比4,450百万円の収入減）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が497百万円（前年同期比1,326百万円の支出減）および投資有価証券の取得による支出が2,619百万円があったもののAriake U.S.A., Inc.の売却代金16,998百万円の入金等により13,849百万円（前年同期比16,179百万円の収入増）の収入となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1,832百万円（前年同期比346百万円の支出増）となりました。これは主に配当金の支払1,813百万円があったことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループの国内の研究開発活動は技術開発部で行っており、主要研究活動はユーザーの要望に応じた各種調味料、スープ類の試作及びテクニカルサービスと、当社企画製品開発及び新素材の調味料の基礎研究であります。

なお、当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は207百万円であります。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

食品業界におきましては、単身世帯の増加に伴い中食市場は拡大する一方、人手不足による人件費増大と言った逆風にもさらされております。

しかしながら、当社グループは日本国内にとどまらず、グローバルエンタープライズとして世界的な規模で企業活動を展開し、いかなる情勢にあっても収益を確保する体制を構築しております。

(7) 経営者の問題意識と今後の方針について

日本国内の食品業界は、少子高齢化という避けることのできない命題を抱え、今後の大きな発展は容易ではない環境にあります。

このような環境下において、当社グループは世界各地で増設した生産設備を背景とした、全世界でのマーケティングを展開しております。

今後とも諸施策を着実に実行して成果を上げ、収益の安定的な増大を実現して、計画どおりの売上高・利益を達成する所存であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	130,000,000
計	130,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月8日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	32,808,683	32,808,683	東京証券取引所 (市場第1部)	単元株式数100株
計	32,808,683	32,808,683	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2019年7月1日~ 2019年9月30日	-	32,808,683	-	7,095,096	-	7,833,869

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
ジャパンフードビジネス株式会社	東京都港区赤坂4丁目2-1	10,608	33.34
公益財団法人 岡田甲子男記念奨学財団	長崎県佐世保市栄町7-3	2,196	6.90
CHASE NOMINEES RE JASDEC TREATY CLIENT A/C(GENERAL) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	CHASESIDE, BOURNEMOUTH, DORSET, BH7 7 DB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	1,454	4.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,408	4.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,311	4.12
株式会社王将フードサービス	京都府京都市山科区西野山射庭ノ上町294番地の1	784	2.46
GOLDMAN, SACHS & CO.REG (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号)	742	2.33
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	4 EMBARCADERO CTR STE 550 SAN FRANCISCO CALIFORNIA ZIP CODE: 94111 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	532	1.67
岡田 直己	東京都渋谷区	412	1.29
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE MONDRIAN INTERNATIONAL SMALL CAP EQUITY FUND, L.P. (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	403	1.27
計	-	19,854	62.39

(注) 1. 上記信託銀行の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)1,408千株、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)1,311千株が含まれております。

2. 上記のほか、自己株式が987千株あります。

(6)【議決権の状況】
 【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 987,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,772,800	317,728	-
単元未満株式	普通株式 48,183	-	-
発行済株式総数	32,808,683	-	-
総株主の議決権	-	317,728	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,400株(議決権の数14個)含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) アリアケジャパン株式会社	東京都渋谷区恵比寿南三丁目2番17号	987,700	-	987,700	3.01
計	-	987,700	-	987,700	3.01

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,043,385	44,499,171
受取手形及び売掛金	² 10,414,698	9,666,131
有価証券	2,000,000	1,500,000
商品及び製品	3,481,308	3,477,829
仕掛品	840,647	882,777
原材料及び貯蔵品	2,425,690	3,017,918
未収入金	17,059,384	19,538
その他	586,341	670,137
貸倒引当金	1,157	1,154
流動資産合計	68,850,299	63,732,350
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,004,303	21,809,235
減価償却累計額	12,497,864	12,575,125
建物及び構築物(純額)	9,506,438	9,234,109
機械装置及び運搬具	24,477,897	24,601,967
減価償却累計額	19,503,488	19,744,352
機械装置及び運搬具(純額)	4,974,409	4,857,614
土地	4,587,383	4,604,631
リース資産	118,282	118,144
減価償却累計額	90,140	96,731
リース資産(純額)	28,141	21,412
建設仮勘定	365,917	301,272
その他	1,126,376	1,158,429
減価償却累計額	931,647	949,065
その他(純額)	194,728	209,363
有形固定資産合計	19,657,018	19,228,405
無形固定資産		
のれん	451,244	389,407
その他	140,918	142,077
無形固定資産合計	592,163	531,484
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 13,714,667	¹ 15,287,302
長期貸付金	14,700	13,707
投資不動産(純額)	558,543	574,439
繰延税金資産	10,630	9,223
長期未収入金	3,000,000	3,000,000
その他	301,872	411,596
貸倒引当金	129	129
投資その他の資産合計	17,600,284	19,296,141
固定資産合計	37,849,466	39,056,031
資産合計	106,699,766	102,788,382

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,428,535	4,481,487
リース債務	14,110	12,221
未払法人税等	7,425,753	1,643,786
賞与引当金	269,916	269,135
役員賞与引当金	78,400	-
その他	2,086,572	2,209,222
流動負債合計	14,160,288	8,615,852
固定負債		
リース債務	15,751	10,231
繰延税金負債	1,974,145	2,082,181
役員退職慰労引当金	136,796	141,308
退職給付に係る負債	1,234,749	1,269,167
その他	274,005	261,312
固定負債合計	3,635,447	3,764,201
負債合計	17,795,735	12,380,053
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,095,096	7,095,096
資本剰余金	7,840,343	7,840,343
利益剰余金	69,596,355	71,603,647
自己株式	2,095,860	2,097,878
株主資本合計	82,435,933	84,441,208
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,285,414	5,252,690
為替換算調整勘定	738,760	229,652
退職給付に係る調整累計額	66,454	48,424
その他の包括利益累計額合計	5,957,220	5,433,918
非支配株主持分	510,376	533,201
純資産合計	88,904,030	90,408,328
負債純資産合計	106,699,766	102,788,382

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
売上高	26,427,416	25,453,198
売上原価	2 17,065,121	2 16,235,641
売上総利益	9,362,295	9,217,557
販売費及び一般管理費	1, 2 3,701,205	1, 2 3,745,973
営業利益	5,661,089	5,471,583
営業外収益		
受取利息	11,889	41,142
受取配当金	85,503	80,605
受取家賃	18,079	16,078
為替差益	6,842	-
デリバティブ評価益	124,324	-
その他	98,908	52,165
営業外収益合計	345,546	189,991
営業外費用		
支払利息	211	6
為替差損	-	18,017
賃貸収入原価	7,542	6,960
その他	7,660	7,234
営業外費用合計	15,414	32,218
経常利益	5,991,221	5,629,356
税金等調整前四半期純利益	5,991,221	5,629,356
法人税等	1,835,441	1,761,039
四半期純利益	4,155,780	3,868,317
非支配株主に帰属する四半期純利益	51,457	47,219
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,104,322	3,821,098

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	4,155,780	3,868,317
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,354,795	32,724
為替換算調整勘定	905,231	523,796
退職給付に係る調整額	14,001	18,030
その他の包括利益合計	463,565	538,490
四半期包括利益	4,619,346	3,329,827
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,584,083	3,297,296
非支配株主に係る四半期包括利益	35,262	32,530

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,991,221	5,629,356
減価償却費	929,072	730,938
のれん償却額	47,839	45,812
貸倒引当金の増減額(は減少)	330	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,343	4,512
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	47,467	52,448
賞与引当金の増減額(は減少)	4,007	186
役員賞与引当金の増減額(は減少)	70,000	78,400
受取利息及び受取配当金	97,392	121,748
支払利息	211	6
為替差損益(は益)	5,513	26,613
デリバティブ評価損益(は益)	124,324	-
売上債権の増減額(は増加)	385,013	682,693
たな卸資産の増減額(は増加)	612,658	691,241
仕入債務の増減額(は減少)	300,382	186,249
その他	62,574	565,510
小計	5,378,001	5,901,919
利息及び配当金の受取額	94,173	113,630
利息の支払額	211	6
法人税等の支払額	1,871,628	6,865,884
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,600,334	850,341
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却による収入	-	1,500,000
定期預金の預入による支出	-	1,500,000
有形固定資産の取得による支出	1,823,968	497,533
無形固定資産の取得による支出	2,850	14,313
投資有価証券の取得による支出	503,721	2,619,330
貸付けによる支出	719	-
貸付金の回収による収入	1,476	1,100
子会社株式の売却による収入	-	16,998,352
その他	-	18,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,329,783	13,849,775
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	4,749	2,018
配当金の支払額	1,464,181	1,813,437
非支配株主への配当金の支払額	9,395	9,705
その他	7,634	7,375
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,485,961	1,832,536
現金及び現金同等物に係る換算差額	318,784	211,110
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	534,195	10,955,786
現金及び現金同等物の期首残高	17,316,304	19,543,385
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,782,109	30,499,171

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、株式会社ディア・スーパは清算が終了したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
投資有価証券(株式)	1,500千円	1,500千円

2. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、前連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の前連結会計年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	82,268千円	-千円
支払手形	84,309	-

(四半期連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費の主要なものは、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
給料・賞与	549,970千円	559,680千円
荷造運搬費	1,494,018	1,578,547
減価償却費	55,172	35,910
賞与引当金繰入額	55,795	62,225
退職給付費用	22,266	27,534
役員退職慰労引当金繰入額	5,343	4,512

2. 一般管理費及び当期製造原価に含まれる研究開発費の総額

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
一般管理費	186,282千円	195,986千円
当期製造費用	12,504	11,536

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	29,282,109千円	44,499,171千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	12,500,000	14,000,000
現金及び現金同等物	16,782,109	30,499,171

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 定時株主総会	普通株式	1,463,811	46.00	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月8日 取締役会	普通株式	636,430	20.00	2018年9月30日	2018年12月4日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	1,813,805	57.0	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月8日 取締役会	普通株式	636,417	20.0	2019年9月30日	2019年12月3日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、天然調味料事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	128円98銭	120円08銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	4,104,322	3,821,098
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	4,104,322	3,821,098
普通株式の期中平均株式数(千株)	31,821	31,821

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額 636,417千円

(ロ) 1株当たりの金額 20円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2019年12月3日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月6日

アリアケジャパン株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 直子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 土居 一彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアリアケジャパン株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アリアケジャパン株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。